

注意喚起（デング熱感染者数の増加）

平成28年6月28日
在スリランカ日本国大使館

1 スリランカ保健省の発表によれば、2016年1月から現在までのスリランカ全国におけるデング熱感染者数は20,000件を超え（うち約30名が死亡）、この約半数はコロンボを含む西部州（Western Province）で発生しています。特に、コロンボにおける感染者数は6,160件と全国でも最多であり、同保健省はデング熱が流行の兆しを見せているとして、デング熱対策を強化しています。

2 つきましては、スリランカへの渡航・滞在を予定している方、及びスリランカに在住の方は、常に最新情報を確認の上、以下3（3）から（5）を参考にデング熱の予防と対策に努めてください。

3 デング熱について

（1）感染源

デング熱はデングウイルス（フラビウイルス属で1～4型までである）を持つ蚊（ネッタイシマカ、ヒトスジシマカ等）に刺されることで感染します。感染は必ず蚊が媒介し、人から人への直接感染はありません。一度かかると免疫ができますが、異なった型のデングウイルスに感染した場合は再発症します。デング熱を媒介する蚊の活動時間は、マラリアを媒介するハマダラカと異なり、夜明け少し前から日暮れまでの間（特に朝と夕方）です。ただし室内にいる蚊は、夜間でも刺すことがあるので注意する必要があります。

（2）症状

デングウイルスを保有した蚊に刺されて感染してから発症するまでの期間（潜伏期間）は、通常4～7日です。症状は、急激な発熱（38～40度）に始まり、頭痛（一般的に目の奥（眼窩）の痛み）、関節痛、筋肉痛、倦怠感を伴います。発熱は4～8日間継続し、痒みを伴ったハシカ様の発疹が、熱の下がる頃に胸部や四肢に広がる場合があります。また、食欲不振、全身倦怠感は1～2週間続き、血小板が減少した例では、鼻出血、歯肉からの出血、生理出血の過多を見ることがあります。通常、これらのデング熱の症状は1～2週間で快復し、後遺症を伴うことはほとんどありません。デングウイルスに感染しても症状の出現しない例（不顕性感染）も多いようですが、その頻度については不明です。

（3）治療方法

デング熱には特効薬がなく、一般に対症療法が行われます。特別な治療を行わなくても重症に至らない場合が多く、死亡率は1パーセント以下であると言われています。ただし、時折、デング出血熱という重篤な病気に至ることがあります。デング出血熱は、口や鼻等

の粘膜からの出血を伴い、通常でも10パーセント前後、適切な手当てがなされない場合には、40～50パーセントが死亡すると言われています。デング出血熱は発熱して2～7日後に発症することが多いようですが、デング熱にかかった人がデング出血熱になるかどうかは事前に予測ができません（大人よりも小児に多発する傾向があります）。発熱が3日以上続いた場合は、医療機関への受診をお勧めします。また、デング熱感染が疑われる場合には、鎮痛解熱剤にはアセトアミノフェンを使用し、アスピリン系の使用は避けてください。

（４）予防方法

デング熱には予防接種も予防薬もなく、蚊に刺されないようにすることが唯一の予防方法です。デング熱発生地域に旅行を予定されている方は、デング熱を媒介するネッタイシマカ、ヒトスジシマカ等が都市部でも多くみられる（古タイヤの溝などのわずかな水たまりで繁殖するため）ことを念頭に置き、次の点に十分注意の上、感染の予防に努めてください。

- 外出する際には長袖シャツ・長ズボンなどの着用により肌の露出を少なくし、肌の露出した部分には昆虫忌避剤（虫除けスプレー等）を2～3時間おきに塗布する。昆虫忌避剤は、ディート（DEET）やイカリジン等の有効成分のうち一つを含むものを商品毎の用法・用量や使用上の注意を守って適切に使用する。
- 室内においても、電気蚊取り器、蚊取り線香や殺虫剤、蚊帳（かや）等を効果的に使用する。
- 規則正しい生活と十分な睡眠、栄養をとることで抵抗力をつける。
- 突然の高熱や頭痛、関節痛や筋肉痛、発疹等が現れた場合には、デング熱を疑って、直ちに専門医師の診断を受ける。
- なお、蚊の繁殖を防ぐために、タイヤ、バケツ、おもちゃ、ペットの餌皿等を屋外に放置しない、植木の水受け等には砂を入れるなどの対策をとる。

（５）スリランカ滞在中の注意事項

スリランカ保健省は、殺虫剤による蚊の駆除は二次的な手立てとの認識を持ち、水溜まりを見つけた場合には取り除くようにするなどして蚊の繁殖を防ぐべく、日頃から公衆衛生の改善に取り組むことが重要としています。以下は当地の日常で取り得る一般的な対策です。

- 水はきれいな汚染されていないものを飲用する。飲料水は全て煮沸するか、市販されている水を使用する。
- 食べ物は熱を通し、衛生面には意を用い、特に洗面所の利用後には石けんを使って、手をよく洗うようにする。
- 身の回りはゴミなどを散らかしたりせず、排水管も詰まらせたりしないよう注意する。
- 発熱や腹痛、下痢や嘔吐といった徴候があった場合は、直ちに医師の診断を受ける。とりわけ子供に対する注意を怠らない。

- 慢性的な病気を抱えている方は、事前に薬を十分に確保しておく。
- 蚊の繁殖を抑えるために、水溜まりを作らないようにする。

(参考情報)

- スリランカ保健省ホームページ

<http://www.health.gov.lk/en/>

- 厚生労働省ホームページ（感染症情報）

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaaku-kanenshou/

- 厚生労働省検疫所（FORTH）ホームページ

<http://www.forth.go.jp/>

(問い合わせ窓口)

- 在スリランカ日本国大使館

住所：No.20, Srimath R.G. Senanayake Mawatha, Colombo 7, Democratic Socialist
Republic of Sri Lanka

電話：(市外局番 011)2693831～3

国外からは(国番号 94)-11-2693831～3

ファックス：(市外局番 011)2698629

国外からは(国番号 94)-11-2698629

メールアドレス：ryoujivisa@co.mofa.go.jp（領事）

imukan@co.mofa.go.jp（医務官）

ホームページ：http://www.lk.emb-japan.go.jp/itpr_ja/00_000089.html

以上